



トステム株式会社

リビング建材 床材

エキスパートⅡ12 施工上のお願い

●不具合の原因となりますので、下記事項をお守りください。

施工前のお願い

- 施工前に各部材を必ず検品してください。製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買い上げ店までご連絡ください。施工後の色調不具合・キズなどによる交換は、お受けできませんのでご了承ください。
- 水がかかったり、直射日光のあたる場所に置かないでください。ソリ・ねじれなどの原因になります。
- 本製品は、屋内用です。土足で使用する場所や水がかかったり、極端に湿度が高い所には使用できません。濡れた場合は、すぐに乾いた布でふき取り、乾燥させてから養生してください。基材のフクレやソリ・ねじれの原因となります。
- コンクリート下地の上に床下地組みをする場合は、コンクリートの含水率が10%以下となるように乾燥させてください。(ポリシートの四周を布テープ止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後シート下のコンクリート面が黒く変色していない程度) 突上げやソリ、基材のフクレ、シミや変色、カビが発生する原因になります。
- 本製品は単板を使用しており、天然木特有の微妙な色柄が持ち味となっています。取付け前に仮並べして色柄を合わせてください。
- 張合わせは3尺ずらしのレンガ張りをお勧めします。
- 床材には防虫処理をしておりません。必要に応じて躯体、木部および床材に防虫処理してください。虫による食害のおそれがあります。

施工上のお願い

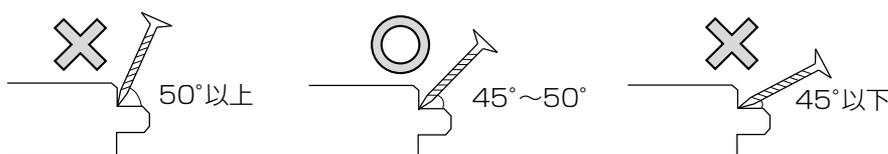
1 根太(下地)について

- 45mm角以上で含水率15%程度の乾燥した、ソリ・ねじれのない、プレーナーがけされた表面平滑なものを使用してください。段違いやソリ・床鳴りの原因になります。
- 根太面は段差がないようレベル出しを行ってください。
- 根太間隔は303mm以下とし、木口継ぎする部分の下に根太がくるようにしてください。
- ピアノ、冷蔵庫などの重量物を置く部分は、根太間隔を詰めるか下地張りなどの方法で補強してください。

2 下地への固定

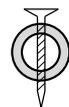
- 床鳴り、浮上りを防ぐため、根太上に接着剤を塗布し、フロア専用スクリュー釘(38mm以上)で根太へ固定してください。フィニッシュネイルやステーブルは使用しないでください。サネ割れや固定強度の低下の原因となります。【図-1】
- 接着剤は、床施工用接着剤(LZZZZ036)をご使用ください。
- 釘を打つ角度は45°~50°で打ってください。釘頭はポンチで沈め打ちしてください。釘打ち角度が低くなりますと、表面フクレの原因となります。【図-2】

【図-2】

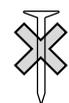


【図-1】

フロア専用
スクリュー釘38mm以上



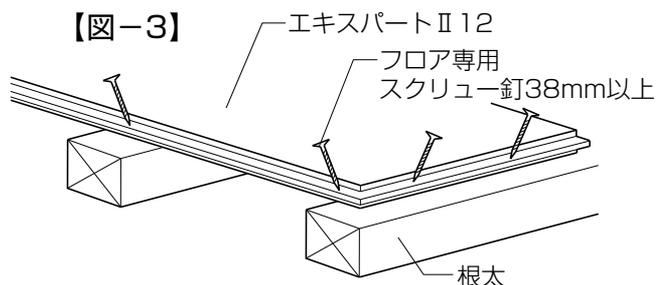
一般釘
フィニッシュネイル



ステーブル

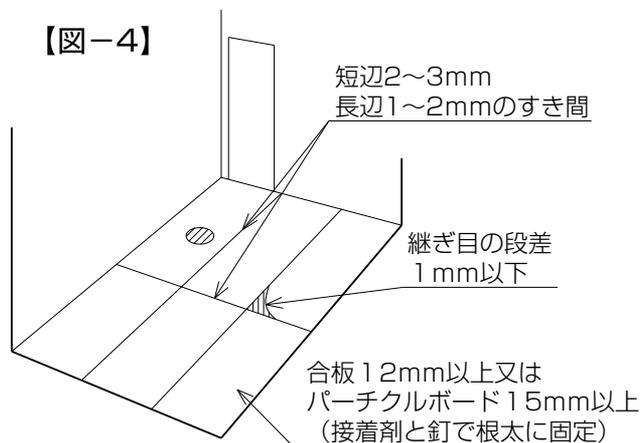


- 床材の寄せ、はめ込みの際には、表面やサネをキズ付けないよう、当て木を使用してください。
- サネ部はたたき込み過ぎないようにしてください。段違いや床鳴りの原因になります。
- 床材のソリや突上げを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。【図-3】
- 接着剤がはみ出た場合は、石油ベンジンを布にしみ込ませてふき取ってください。



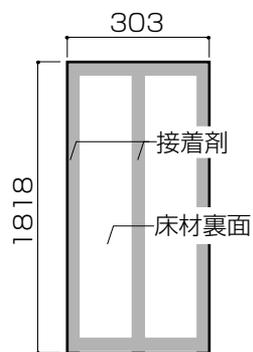
③ 木質パネルを捨て張りする場合

- 捨て張り材の厚みは合板で12mm以上、パーティクルボードで15mm以上としてください。
- 捨て張り材は水平で段差のないように施工してください。段差は1mm以内としてください。
- 捨て張り材の継ぎ目は合板で2mm程度、パーティクルボードで4mm程度を目安としてすき間をあけてください。突合わせにすると床鳴りの原因になります。【図-4】
- 捨て張り材が濡れていたり、含水率が高い状態で床材を施工しないでください。水分が床材に移行して突上げなどの不具合の原因になります。
- 床材と捨て張り材の継ぎ目は同位置にならないよう、縦・横とも100mm以上ずらしてください。段差の発生や床鳴りの原因になります。
- 床材の固定には接着剤を併用し、フロア専用スクリュー釘(38mm以上)で根太位置を狙って打込んでください。床材と捨て張り材のみの固定ではソリ・床鳴りの原因となります。フィニッシュネイルやステーブルは使用しないでください。サネ割れや固定強度の低下の原因となります。



- 【図-1】
- 釘を打つ角度は45°~50°で打ってください。釘頭はポンチで沈め打ちしてください。釘打ち角度が低くなると、表面フクレの原因となります。【図-2】
- 接着剤は、右図の位置に塗布してください。【図-5】
- 床材のソリや突上げを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。【図-3】
- 接着剤がはみ出た場合は、石油ベンジンを布にしみ込ませてふき取ってください。

【図-5】

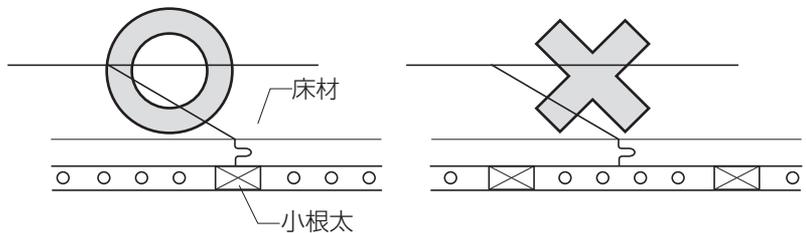


塗布量：床材1枚当たり
150~200g

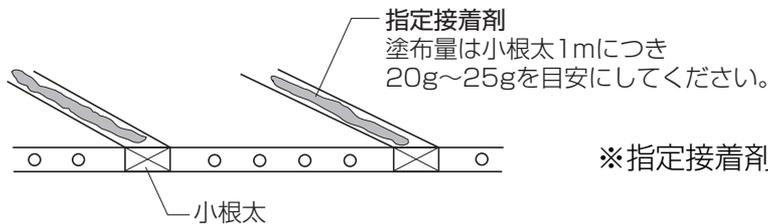
4 床暖房用仕上げ材として使用する場合

①床材の継ぎ目(短辺方向)は必ず小根太上にくるようにして寸法出しをしてください。

※小根太の間隔は1尺(303mm)が基本となります。



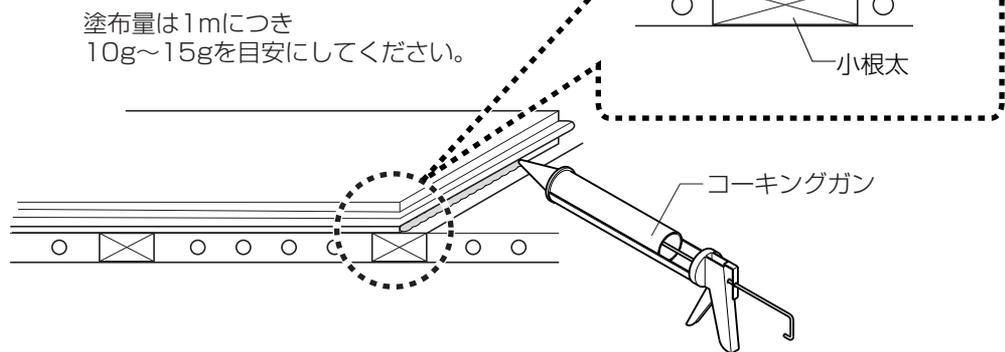
②小根太上には指定接着剤を塗布してください。



※指定接着剤：床施工用接着剤(LZZZZ036)

③指定接着剤を短辺方向の雄ザネの下部に塗布してください。
※短辺方向に接着剤を塗布しないと目スキ、床鳴りの原因となります。

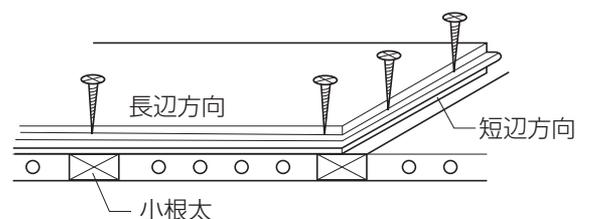
※サネボンドは同梱されておりませんので、指定接着剤を別途手配してください。



④床材は短辺方向、長辺方向に釘を打って根太に固定してください。(短辺方向2本、長辺方向各根太1本計7本)
特に、短辺方向に釘を打ちませんと目スキの原因となります。

※釘はフロア専用スクリーュー釘(38mm以上)をご使用ください。釘を打つ角度は45°~50°が適当です。「根太以外の部分」、小根太付きマットの「小根太以外の部分」、又は、その他床暖房システムの「釘打ち禁止部」には釘を打たないでください。

- ・短辺方向の釘：2本
- ・長辺方向の釘：7本(各根太1本)
- ・フロア専用スクリーュー釘38mm以上
(ステーブル、フィニッシュネイルは固定強度が低下しますのでおやめください。)



上記施工方法以外の方法で施工された場合の目スキ・床鳴りなどの不具合は、責任を負いかねる場合があります。

施工後のお願い

- 施工後は、木クズ・砂・ゴミを完全に取除き、養生シートやベニヤなどですき間なく養生してください。その際、必ず別売りの養生テープ (LZZZZ004) をご使用ください。市販のガムテープなどは粘着力が強いため、表面材のハガレの原因となります。
- 施工中、雨の吹込みにより、床材の表面が濡れたままになると、フクレやソリの原因になります。濡れたまま放置することはお避けください。
- ワックスがけをしなくても耐久性はありますが、ワックスがけをする場合は、木床用の樹脂系ワックス (リンレイ：オール) をご使用ください。ご使用する際は、直接床にまかずに、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。
- 汚れのひどいときは、固く絞った濡れぞうきんでふくようにしてください。その後、乾いた布でふいてください。
- ワックスはくり剤は使用しないでください。表面材を傷める原因となります。